

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 27 日現在

機関番号：72810

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20401038

研究課題名 (和文) ヤッスホユック (トルコ共和国) の発掘調査-古代アナトリアの都市と
交易路の解明研究課題名 (英文) Excavations at Yassihöyük in Turkey – Researches on A City State and the
Trade Routes in the Ancient Anatolia

研究代表者

大村 正子 (OMURA MASAKO)

(財) 中近東文化センター・アナトリア考古学研究所・研究員

研究者番号：80370196

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：考古学、アナトリア、ヤッスホユック、古アッシリア、交易路

1. 研究計画の概要

トルコ共和国クルシェヒル県に位置するヤッスホユック遺跡の発掘調査は、紀元前 3 千年紀から 1 千年紀にかけての中央アナトリアにおける都市構造を解明するとともに、古代アナトリアおよびメソポタミアにおける都市間の交易システムの考古学的実証を試みるものである。2007 年の予備調査における磁気探査、地形測量、表探調査、空撮を踏まえ、本研究では、ヤッスホユック発掘調査の第 1 段階として、ヤッスホユック遺丘中央部での発掘調査を開始する。その第 1 の目的は、磁気探査で検出された大遺構の確認と年代決定であり、更に第 2 の目的は、遺跡の概要を可能な限り把握することである。発掘調査と平行して、地中探査を継続し、出土遺物の分析を行う。また、遺跡の地理学的立地条件を調査する。

2. 研究の進捗状況

東西 625m、南北 500m、高さ約 13m の比較的大きな遺丘であるヤッスホユックでは、周縁を高い市壁に囲まれ、中央部にある三つの高まりのうち最も高い中央の高まり部に、少

なくとも 50mx40m はある大遺構の存在が磁気探査により明らかとなった。また、表探調査では、紀元前 3 千年紀より 1 千年紀までの文化の堆積が推定され、特に、紀元前 3 千年紀末から 2 千年紀初頭と紀元前 1 千年紀前半に重要な都市が存在したことが推定された。これらの予備調査結果を踏まえ、遺丘中央部で開始した発掘調査では、第 I 層：後期鉄器時代と第 II 層：前期-中期青銅器時代の文化層を確認した。

(1)第 I 層： 上層部は現代の耕作によりかなり破壊されているが、3 建築層が残存していた。第 1、第 2 建築層の遺構は脆弱なものであったが、第 3 建築層の遺構は極めて大規模で、堅牢な石壁の礎石を残していた。紀元前 1 千年紀の遺構としては、中央アナトリアでは今までに類のないものである。出土遺物から後期鉄器時代に位置づけられる。

(2)第 II 層： 磁気探査で検出された大遺構を含む大火災層であった。王宮址かと考えられるこの大遺構は大小多くの部屋に分かれており、厚い化粧土の施された日乾煉瓦壁は 2m 余りの高さで保存されている。未だ一

部を発掘したにすぎないが、出土遺物から前期青銅器時代末期から中期青銅器時代初頭に位置づけられると推察される。これはアッシリア商人が活躍した時代に先行する時期であるが、アッシリア商人の活躍の受け皿となる都市が既に準備されていたことを示している。アッシリア商人の活躍やその交易が行われた都市名は、主にキュルテペ/カニシュ出土の粘土板文書から知られているが、これらの都市のほとんどは考古学的に検証されていない。また、前期青銅器時代末、アッカドのサルゴンの遠征等、メソポタミアとの関わりが既に始まっていたことも文献から知られているが、その考古学的実証は未だなされていない。ヤッスホユックでは、紀元前3千年紀末から2千年紀初頭にかけての交易システムの中で少なくない役割を果たしていたと考えられる中央アナトリアの都市が明らかにされようとしていると言える。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

多年を要する発掘調査の初期の段階で、主要層位である紀元前3千年紀末から2千年紀初頭の火災層に到達し、本研究の主目的である年代確認作業に着手できていることは、順調な進展であると言える。

4. 今後の研究の推進方策

本研究期間の残りの1年には、遺跡中央部の火災層における大遺構の発掘調査を継続し、年代確認作業を進展させる。同時に、カールムの存在が期待される下の町の調査（地中探査）を開始する。

ヤッスホユックの発掘調査は、少なくとも30年以上を、遺跡中央部の大遺構およびその周辺の発掘調査も、最短でも10年は要する。その開始段階を担った本研究（2008-2011年）は、今後の調査の基本的な方向を定める

上で重要であり、従って、年代決定の鍵を握る出土遺物の研究にも慎重を期する必要がある。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

① Masako Omura, “2009 Yılı Yassihöyük Kazıları,” Kazı Sonuçları Toplantısı, Ankara 2011, pp. 360-367.

② Masako Omura, “Archaeological Surveys at Yassihöyük,” Anatolian Archaeological Studies, XVII (2010), pp. 91-164.

〔学会発表〕（計5件）

① 大村 正子 “Excavations at Yassihöyük 2010” 2011.05.25, イノニユ大学 トルコマラティヤ

② 大村 正子 “Excavations at Yassihöyük 2009” Türk Kazı Sonuçları Toplantısı (トルコ共和国文化観光省主催考古学シンポジウム), 2010.05.26, トルコ-イスタンブル

③ 大村 正子 「第一次ヤッスホユック発掘調査」トルコ調査報告会、2010.04.03, (財)中近東文化センター 東京都三鷹市

④ 大村 正子, “Archaeological Surveys at Yassihöyük” Türk Araştırma Sonuçları Toplantısı, 2009. 05.23, パムツカレ大学 トルコ-デニズリ

⑤ 大村 正子, 「ヤッスホユックにおける堆積文化-表採土器による推定」トルコ調査研究会、2009.03.29 (財)中近東文化センター 東京都三鷹市

〔その他〕

http://www.jiaa-kaman.org/jp/excavation_yassihoyuk.html